

第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

重点目標⑧ 教職員の資質・能力の向上

教育への情熱を持ち、豊かな人間性を備え、自己相互研鑽を積み、確かな教師力を持った教職員をめざします。



1 教職員研修の充実

◆ ねらい

教職員としての専門性や実践的指導力、幅広い社会性や柔軟な発想、対人関係のスキル等を養い、さらなる教師力の向上をめざします。

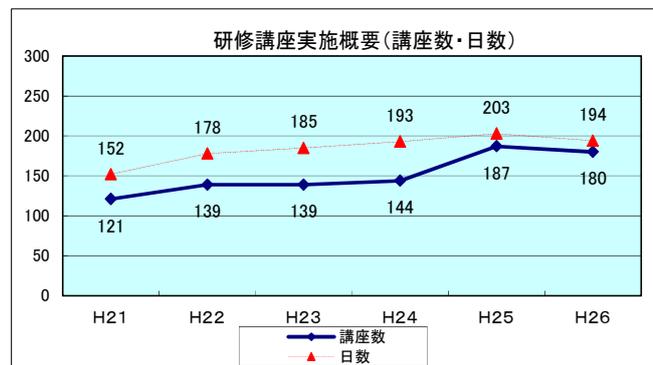
取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
教師力向上サポートブック(教師力向上研修)の活用による研修の取組評価	3.0 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.1 (4点満点)	3.6 (4点満点)

◆ 現状と課題

○ 「教師力向上研修」の活用

「教師力向上研修」を全教職員が個人の研修計画やその振り返りに活用しています。管理職との面談を通じて、個人目標、その達成に向けての具体的な取組の決定をします。そして年度末には取組を振り返り自身の課題への考察に生かされています。

○ 教職員研修の現状（講座数・日数、参加者数）



平成26年度は、平成25年度に比べると参加人数が減少しています。これは、研修内容の精選などで講座数が減少したことがおもな要因です。

上記以外にも、希望があった学校にICT活用や学校ホームページ更新についての出前研修を行いました。

○ ライフステージ別教職員研修

教職員研修講座では、個人年取組計画に基づいた講座選択ができるように、教職経験年数（ライフステージ）に応じた講座の充実を図りました。

若手教員研修（小中学校対象110人・必修講座3回、選択講座2回）や、ミドルリーダー教員研修（幼小中対象42人・必修講座2回、選択講座2回）など、ライフステージに応じた講座、自



ミドルリーダー教員研修

己の課題に見合った講座を受講できるようになっています。参加型の研修会を増やすことで、互いの実践交流を図ることができました。

○ 若手スキルアップ研修(実践交流研修)の実施

若手教員の必修講座として小学校はブロック別に5講座の授業づくり研修を、中学校は教科別に8講座の授業づくり研修を行いました。同じ年代の教員どうしが授業づくりの課題や悩みについて考え合う場にすることができました。参加者のその講座に対する満足度は高く、自分の実践にすぐに生かせるものとなりました。



小学校ブロック別授業づくり研修

○ 課題

今後は教員の年齢構成が急激に若年化することが予想されます。増加する若手教員に対する研修とともに、校内でリーダーとなるべきベテラン教員のための研修を充実させ、学校全体で教員の資質・能力向上を図っていく必要があります。



中学校教科別授業づくり研修

◆ 今後の方向性

○ ライフステージ別教員研修等の充実

受講対象者や研修のねらいを明確にし、より実践的で能動的な教職員研修講座を実施することで、一人一人の「教師力向上」を図ります。

今後は若手やミドルリーダーだけでなく、学校におけるOJTを有効に機能させるために、ベテラン教員の研修も充実させていきます。



参加・体験型の研修

○ ニーズに応じた研修の推進

学校の現状や要請に応じて、初任者研修や若手教員研修対象者の授業を参観し、校内研修の進め方や内容等について相談やアドバイスを行います。また、月1回程度若手教員を対象とした講座を開設し、学級づくりや授業づくりについての研修を行います。

そのほか、ICTを活用したより実践的な出前研修など、それぞれの現場のニーズに応じた助言や支援を、各校・園に出かけて実施します。

2 研究協議会活動の充実

◆ ねらい

四日市市・三重郡内の幼稚園、小・中学校の全教職員（校長・教頭・教諭等）は、勤務校園を超えて35の三沔教育研究協議会のいずれかに所属し、それぞれに研修テーマを設けて主体的な研修活動に取り組んでいます。また、研究協議会活動を通して保護者や地域の人々との連携も進めています。

この研究協議会活動の運営の母体となっているのが、「三沔教育研修運営委員会（略称三沔運営）」です。三沔運営は、三沔管内教職員の研修活動における事業の運営や調整について支援をしています。このような主体的な研修組織は全国的にみても大変特色あるものです。

◆ 主な取組状況

○ 研究協議会の活動

研究協議会は、年間7回（5、6、10、11、12、1、2月）の定例日を設定し、授業研究、研究発表、実践発表、実技研修等の研修会を実施しています。

特に、6月と11月定例日は「授業研究の日」と位置付けて実施することで、各研究協議会において授業づくりを核とした授業研究を進めることができました。

数年来研究協議会間で連携した研修会を継続し、幼稚園と小学校、小学校と中学校あるいは専門別、課題別・問題別研究協議会が相互参観による授業研究や協働的な指導方法、教材開発等の研究を行ってきました。

研究協議会名	協議会数	授業研究数
小学校教科別研究協議会	9	14
中学校教科別研究協議会	10	15
専門別研究協議会	5	11
課題別・問題別研究協議会	11	9



○ 教育講演会、教育研究大会

教育講演会、教育研究大会（課題別・問題別教育研究大会）では、教育の現状に照らしたテーマを取り上げ、保護者も交えた研修会を実施しました。各研究協議会の研修成果の発表の場であるだけでなく、保護者と教育に関して意見が交流できる場にもなりました。

開催日	講演会・研究大会名	場所	参加人数
8月20日（水）午前	教育講演会	文化会館	513人
8月20日（水）午後	課題別・問題別教育研究大会	15会場	881人
8月26日（火）終日	教科別・専門別教育研究大会	24会場	1235人

○ 研究協議会共催研修会

教育委員会と研究協議会が共催して、教職員の資質・能力の向上を図るための研修会を企画しました。教職員個々のステージに応じた研修、専門分野における実技・実践力の向上や課題解決につながる研修、参加体験型の実技研修会、講義・演習会等を実施しました。

・実施講座数 18講座 参加人数 1,250人



◆ 今後の方向性

- 各研究協議会では、教職員の資質・能力の向上をめざし、喫緊の教育課題に対応した実践的な研修会を実施します。そのためには、授業研究を中心に据えた研修会を年間1回以上行い、指導方法や指導内容を磨くことで、授業改善に努めます。また、模擬授業、ワークショップ型研修会等、工夫ある研修会を企画・実施し、自己相互研鑽を推進していきます。
- 研究協議会間の連携を図ることで、双方の専門分野を交流させながら、より充実した研修を推進していきます。
- 教職員が定例日の研修会に参加しやすいような環境を整え、より一層の研究協議会活動の活性化を図ります。
- 教育委員会と研究協議会との連携を一層深め、共催研修会における専門的で多様な企画内容の充実を図ります。
- 研究協議会活動で学んだ指導方法や指導内容が、教職員各自の勤務校へ還元されるような取組を進めることが大切です。



3 校・園内研修の充実

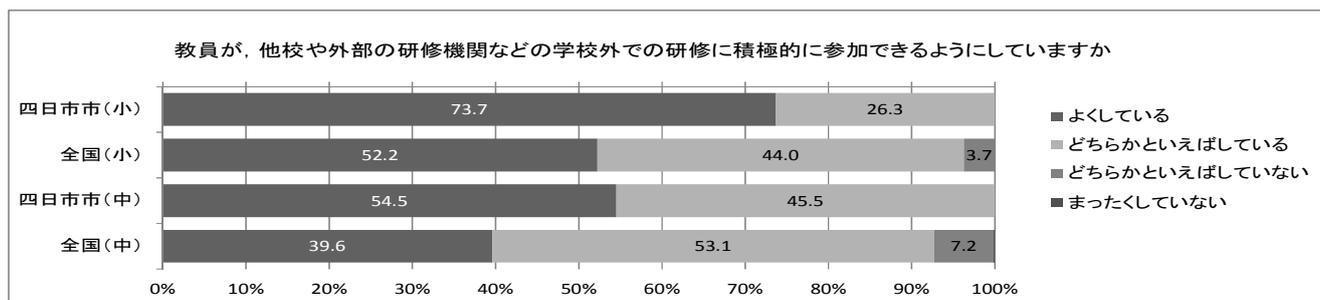
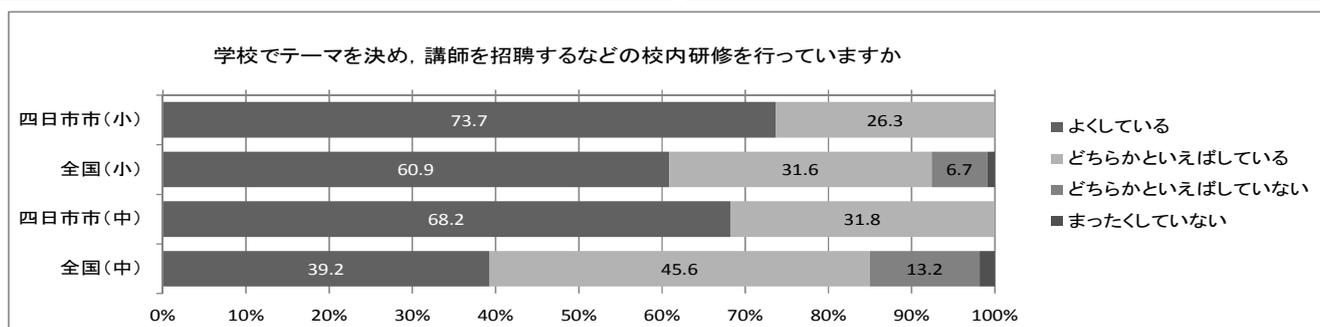
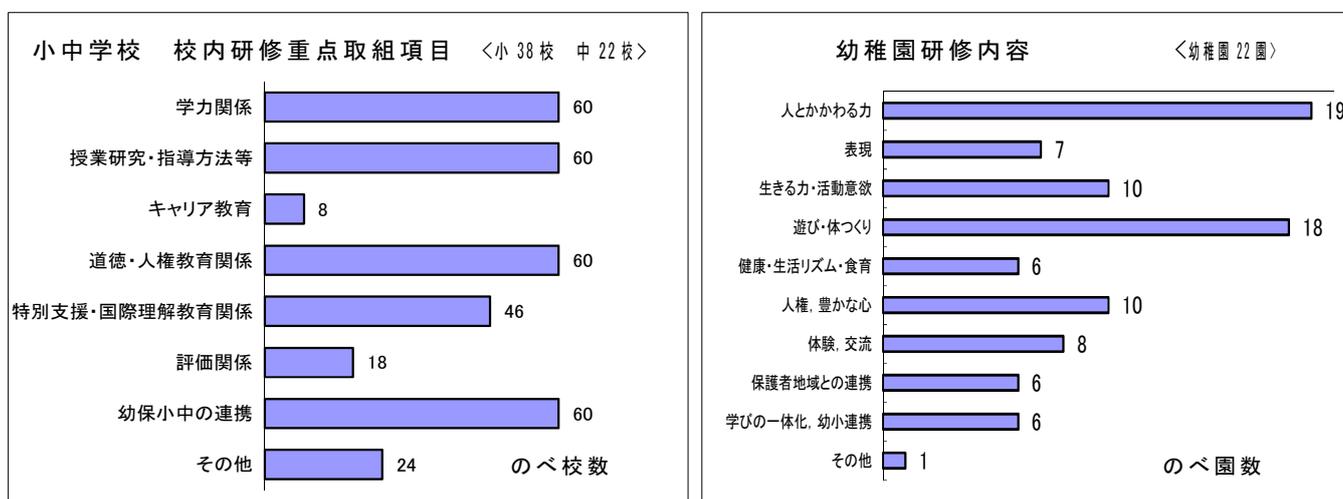
◆ ねらい

校・園内研修を充実させ幼保小中での指導体制の一体化を図ることで、教職員一人一人の力量を高め、子どもの成長と学びを系統立ててはぐくんでいきます。

取組指標	実績値 (平成24年度)	実績値 (平成25年度)	実績値 (平成26年度)	目標値 (平成27年度)
教職員全員が相互研鑽のため授業公開をした学校・園の割合	98.4%	98.5%	97.6%	100%

◆ 現状と課題

○ 校園内研修の主な内容<平成26年度 各校・園の研修主題の類型>



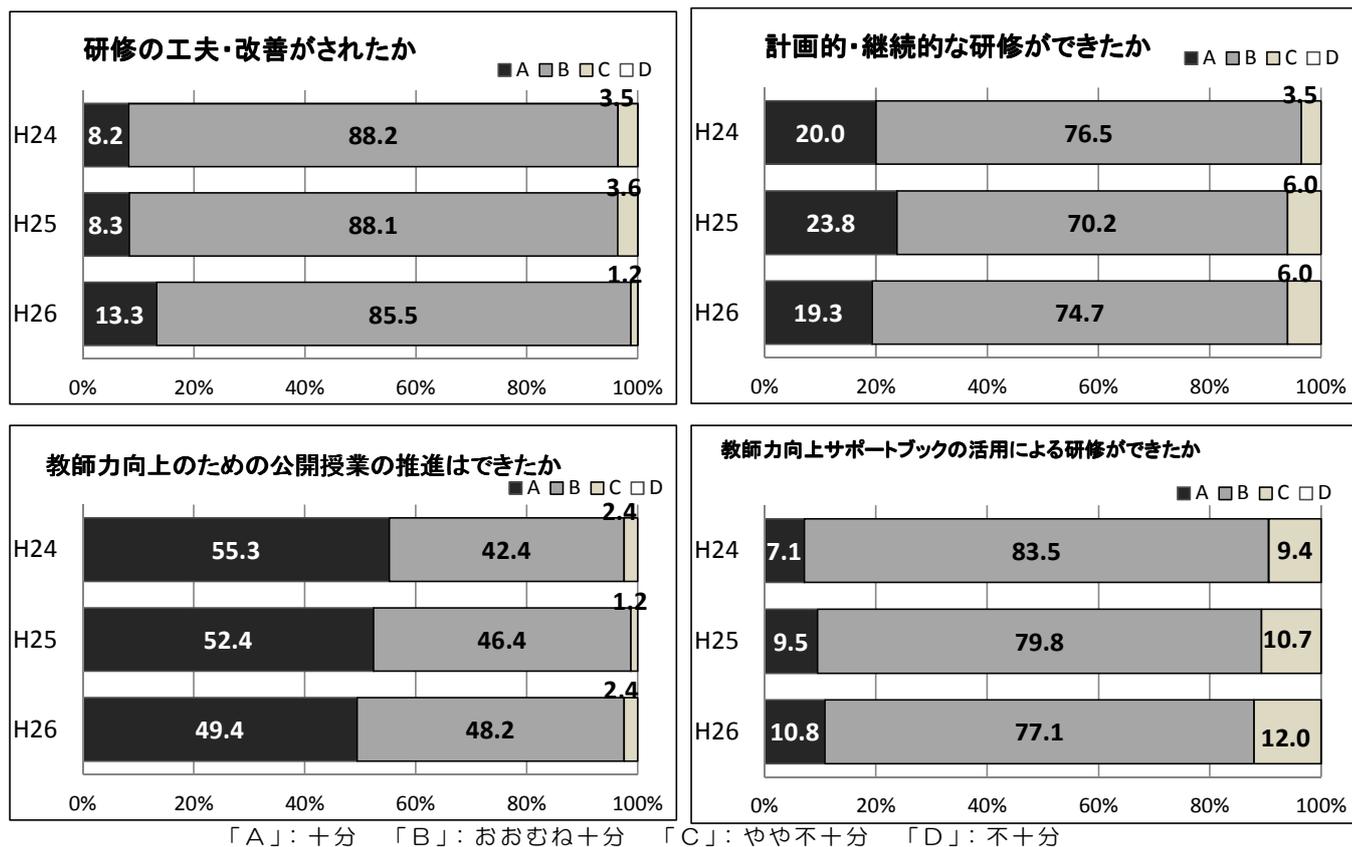
※H26 全国学力・学習状況調査学校質問紙から

重点⑧ 教職員の資質・能力の向上

- すべての学校・園において、学校づくりビジョンに基づいた研修テーマを設定し、校・園内研修の充実が図られています。
- 全国学力・学習状況調査の学校質問紙における状況から、全国との比較において、校・園内研修の充実が図られていることがわかります。

○ 研修に関する各学校・園の反省

〈平成26年度学校・園教育活動の評価から〉 〈幼稚園 23園 小学校 38校 中学校 22校〉



- 各学校・園の反省からは、工夫・改善に努めながら計画的・継続的に研修を進めていることがわかります。
- 各学校・園とも、教職員全員が年1回以上授業公開等を行い、授業改善を目的とした研修が進められています。
- 全小中学校で内容、指導等について分析・検証する授業研究や指導方法の研究に重点をおいており、確かな学力の向上をめざした校内研修が進められています。
- 全小中学校において幼保小中の連携を重点にした研修を進め、学びの一体化を推進しています。



○ 三重大学教育学部等との連携による校・園内研修会の実施回数

	学習指導・授業づくり	生徒指導	道徳	健康・体力向上	特別支援	家庭・地域との協働	その他	合計
幼稚園	0	0	0	0	12	0	2	14
小学校	53	0	0	0	2	1	0	56
中学校	2	0	0	0	3	0	0	5
合計	55	0	0	0	17	1	2	75

- 三重大学教育学部を中心に、大学の教員を各校・園に招いて研修の充実に努めています。特に、年間を通して同じ教員から継続した指導、助言を受けることによって、成果をあげている学校が増えています。

○ 指導主事の派遣

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	13	71	19	93	26	67	53	11	28	24	2	407

- 各学校・園から要請を受け、各種研修会等における助言や指導のために指導主事が学校・園を訪問しています。要請以外でも、随時、学校・園を訪問し、指導や助言、相談に応じています。また、指導主事は関係機関を訪問し、学校との調整に努めています。

◆ 今後の方向性

- 各学校・園内での日常的な相互授業公開や実践交流の実施を一層進めます。
- 校区が一体となった研修推進体制の充実が図られるよう、学びの一体化の取組をさらに進めます。
- 全国学力・学習状況調査を活用し、各校の教科指導の充実と学習状況の改善を図る目的から、学力向上に関する研修会を設定し、学校における改善の取組への支援を行います。校内研修の効果についても、子どもの姿を通じて検証を行い改善を図っていきます。
- ライフステージに応じた各種研修会への積極的参加を促すとともに、校内で研修内容の共有化を進めます。
- 問題解決能力向上をめざした校内研修の充実を図っていきます。